はじめに

「ダラダラと難しい言葉で書かれている解説は、逆にわからない」……そして、そっと書を閉じる。現代文の勉強をやり始めた入門者が、最初に出くわす壁の一つだと聞きます。

どうやら、本文内容や設問の「解説」が、入試現代文の「読解そのもの」になってしまっていて、入門者を中心に「読む気が失せる」「うんざりする」という言葉をよく耳にします。

その結果、現代文の勉強から逃げるために、様々な言い訳やヘリクツを考えるようですね。「解説」があまり理解できなかったにもかかわらず、「日本語だから多分どうにかなるはずだ」とか、完全に開き直って「どうせ今までの読書量の問題だし、もう手遅れだ」とか、そのバリエーションは実に豊富です。

でも、本当は「点数を取りたい！」「どうしたらできるようになるんだ？」「できる時とできない時の『波』をなくしたい！」と、一方では思っている。

とはいうものの、今さら多くの本を読んで、ホンモノの読解力や教養を身につける時間などあるはずもない。だから、目の前の問題は、その場しのぎのフィーリングで解いてしまう。当然のことながら、その結果は良かったり悪かったりの繰り返しで、点数が安定することは永遠にない……。

そうした現代文入門者は、私のクラスにも毎年たくさん訪れます。しかし、そんな入門者でも、私の講義を

受講しているうちに、現代文への見方をがらりと変え、やがて学習を熱心に進めてくれるようになるのです。それどころか、飛躍的に成績を伸ばしてくれる受講生も続々と現れます。一体なぜでしょうか？

それは、現代文には「解法」が確実に存在し、その「解法」を身につければ、誰もが安定的に点数を取れるということを、入門者が知ったからです。勉強すれば必ず「できる」ようになる科目だとわかれば、俄然、現代文への向き合い方も変わっていきますものね。

さらに、講義では、堅苦しい言葉での説明を、長々と行わないということも理由の一つにあるようです。たしかに、難関大学受験者にはそれなりの説明が必要ですから、たっぷりと解説することもあります。しかし、現代文の勉強を始めようとしている入門者にとって、「ダラダラと難しい言葉」で行われる解説は、何の役にも立ちませんし、むしろ必要ないと言っても良いでしょう。

とはいえ、最初は入門者であった受講生も、講義の回数を重ねるにつれて、たとえ難しい問題の解説であっても、無理なくスムーズに理解できるようになっていきます。要は、現代文をその気になって学ぶとっかかりを得る機会がなかったから、前向きに現代文の勉強に取り組めなかっただけなんですね。

事実、本書を執筆するにあたり、受講生から様々な声をもらいました。「授業を受けるまでは漠然とフィーリングで解いていたけど、授業を受けて目からウロコが落ちました。先生の本と受験生のうちに出会いたかったです」「勉強を始めた頃は、解説の日本語を理解するのが大変だったので、先生の参考書があれば良かった」「先生の解法を早くから知っておきたかった」「本を出すのが遅いと思いますよ（笑）」……などなど。

そこで本書は、私の講義をできるかぎり再現し、さながら講義を進めていくように、現代文の「解法」を一つひとつわかりやすく解説していきます。

もちろん、難解な説明や、余計な説明は一切排除します。あくまでも入門者に必要なことだけに話を絞り、本の薄さにもこだわりました。というのも、受講生から「現代文が苦手な人にとって、ぶ厚い参考書はヤル気が失せます」という声を多くもらったためです。そうした声を踏まえ、たとえ入門者であっても一気に読破できるよう、コンパクトにまとめました。

しかも、入門書でありながら、扱う問題は、実はハイレベルなものばかりです。というのも、スタート時は入門者であっても、いずれは難関大学に行きたいと考えている人も多いと思われるからです。ということは、すべての現代文入門者が、十分に満足できる一冊だといえるでしょう。

また、問題文も、受験生がぜひとも読んでおきたい文章だけに絞り、出題年の新旧を問わずに厳選しました。たとえば、「文明」「科学技術」「合理主義」など、入試現代文で頻出のトピックを扱った文章を中心に構成してあります。ですから、こうした文章中に登場するキーワードもあわせて理解していけば、学力はさらにアップするはずです。

ところで、最近の「参考書」は、製版・印刷技術の進歩の結果、見た目に美しいレイアウトのものが多くなってきました。けれども、勉強を能率的に進めていく上で、そうした一見親切そうな、きらびやかなレイアウトは、はたして使いやすいのだろうか？　そんな疑問が私にはあります。

そこで本書は、あえて「クラシカル」な参考書のレイアウトにこだわっていくことにしました。見てくれは地味で時代遅れかもしれませんが、受験生がすいすい読み進め、効果的に学ぶことができる「本」のレイアウトは、この形のものであると思っています。

というわけで、紙面も、あえて単色刷りにしました。本書を使ってくれる人それぞれが色ペンを手に持って、自分が「大事だな」と思ったら、そこにチェックを入れながら読み進めてほしい。そのほうが、さらに理解は深まりますし、読み返すたびに新しい発見がいくつもあることでしょう。

「現代文の基本を学べる、何かオススメの参考書はありますか？」

この一冊が、その声に十分応えることができるものになっていると、筆者は信じています。

二〇一八年一〇月

木村哲也

使用にあたって

本書は、入門者向けに現代文の「解法」を説明する「参考書」です。読解問題を実践的に数多く解いていく「問題集」ではないので、その点は注意してください。

大抵の場合、現代文の参考書というと、大問をまるまる一つ取り上げ、それを解説する過程で読み方や解き方を紹介するものが多いようです。しかし、本書は、そうしたやり方ではなく、**どう解いていくのかという手順を、段階的に示しました**。ここが類書との最大の違いです。

段階は、全部で五つあります。この五つの段階は、実際の問題で行わなければならない作業の順序に従って並んでいるので、**本書の工程そのものが、現代文の問題を解くプロセスそのもの**となっています。ですから、本書にこれから取り組む人は、この本を繰り返し読み、そのプロセスをぜひ自分のものにしてほしい。このプロセスは、まさしく、現代文を解く「フォーム」といえるものです。

何事においても「フォーム」や「型」というべきものが存在します。フィギュアスケートだろうが、剣道だろうが、ダンスだろうが、様々なスポーツや習い事を上達させるカギは、それぞれのフォームを体得することでしょう。

たとえば野球のピッチングでも、フォームが定まってこそ、はじめて良い成績を残せます。とはいえ、フォームを固めるためには反復練習が必要です。身体の動きを意識し、何球も投げ込まなければいけない。フォームが固まれば、やがて速い球を投げられるようになり、コントロール良く投げられるようになっていく。そして、その後、試合での実践を重ねる中で、様々な試行錯誤を経て、やっと納得のゆくピッチングがで

きるようになっていきます。

現代文も、これと似たところがあります。というのも、解き方の「フォーム」、すなわち解法を固めない限り、ひたすら問題を解いても、決して望むような点数を取ることができないからです。だから、本書は、その**「フォーム」をマスターするための一冊**だと考えてください。

ところで、受講生に向けて、私はしばしばこう言います。「問題を解くだけでは成績は上がりません。講義を受けるだけでも成績は上がりません。成績を伸ばすために必要なことは『復習』。**学んだ『フォーム』を何度も辿り直すことで解き方が固まり、点数を取れるようになる**のです」と。

本書の使い方も同様です。ぜひ本書を繰り返し読んでみてください。それにより、本書で学ぶ解法がだんだんと自分のフォームとして確立され、やがて安定的に点数を取れるようになっていきます。

そして、解き方のフォームが身についたら、実践的な問題演習に入り、できるだけ数多くの問題に触れていってもらえると良いですね。なぜなら、入試問題は初見のものばかりが並ぶからです。問題演習を重ねていないと、いかんせん、初見の問題にうまく対応できません。しかし、一定の解法を確立した上で、実践での経験値を上げていけば、やがていかなる問題でも攻略できるようになります。

それでは、入試現代文へのアプローチを、はじめましょう！

目次

はじめに　2
使用にあたって　6

予　講　「すいすい現代文」へのアプローチ　10

第0講　「問い」へのアプローチ　14
例題1　出題者と受験生との「架け橋」　16

第1講　「傍線部」へのアプローチ　24
例題2　根拠探しの「旅」に出る前に　25
例題3　「?」から「!」への瞬間　31
例題4　記述も傍線部から！　34

第2講　「一文」へのアプローチ　40
例題5　隠れた論理関係を探せ！　40
例題6　灯台もと暗し　44
例題7　選択肢「泥沼」回避術　46

【ワンポイント講義❶】「情報処理」って何ですか？　52

第3講　「前後の一文」へのアプローチ　54
例題8　それは、ありえへん……　54

第4講　「文法」へのアプローチ　60
例題9　「距離」という幻想　61
例題10　肯定と否定のあいだ　67
例題11　文法で記述を攻略　74
例題12　心情把握の実態に迫る　82
例題13　「筆者」と「出題者」　90
【ワンポイント講義❷】　小説☆革命　96

第5講　「同内容」へのアプローチ　100
例題14　「難」読解を制する　101
例題15　抜き出し問題の鍵　108
●ワンポイントコラム●　BE GREEDY！　貪欲に！　114

実践講　ファイナルアプローチ　118
総合問題　いざ、読解へ！　118

あとがき　132
5段階のアプローチ☆一覧　134
アプローチの手がかり☆一覧　135

5段階のアプローチ☆一覧

第0段階　「問いの条件」を、確実に把握せよ！ ＝ ナビに従え！

第1段階　傍線チェック ＝ 傍線部の分解からはじめよ！

第2段階　一文チェック ＝ 傍線部や空所を含む一文をチェック！

第3段階　三文チェック ＝ 前後の一文とのつながりを意識せよ！

第4段階 ①　文法チェック「指示語」＝ 一文チェックからスタート！

第4段階 ②　文法チェック「接続語」＝ 論理関係を捉えよ！

第4段階 ③　文法チェック「文構造」＝「S→V」関係を意識せよ！

第5段階　読みつなぎ ＝「同じ内容」「似た内容」「同じ構造」の箇所へつなぐ

アプローチの手がかり☆一覧

アプローチの手がかり①　選択肢 ＝「解答要素のイイカエ」に注意！

アプローチの手がかり②　論理関係 ＝「対比」「イコール」「因果」をつかめ！

アプローチの手がかり③　解答要素を拾い出す → 選択肢の検討 → 要素を含む選択肢を選ぶ

アプローチの手がかり④　長文選択肢は、後半（特に末尾）に注目！ → 解答時間の短縮

アプローチの手がかり⑤　「難」読解は、形式的処理！ ＝ アプローチを徹底せよ！

アプローチの手がかり⑥　「傍線部」が設定されていない場合、自分で「傍線部」を設定せよ！